

科目名：歯科放射線・臨床検査学 (Oral Radiology and Laboratory Medicine) 履修年次/時期：2年次 前期 授業形態：講義 担当教員：谷口 紀江（実務経験有）、角田 晃（実務経験有）		必 1単位
学修目的	歯科放射線学：歯科診療補助を行うにあたって必要な様々な検査の方法、画像診断の概念、放射線防護の基本について理解し説明できる。 臨床検査学：超高齢社会である現代では、全身的な障害や疾患を有する患者の歯科受診が多い。全身疾患をもつ患者の歯科診療補助を行う上でも、臨床検査の意義や検査値が表す身体の状態を知ることが重要である。そのような背景により臨床検査に関連する理解の必要性と意義を習得する。 DP：2- (2)、3- (3)、 CP：2、3に関連する。科目 No. S2C12H20	
到達目標	歯科放射線学 ①放射線に関する基本的な知識、生体への影響と防護について説明することができる。 ②歯科におけるエックス線撮影の必要性、撮影方法の種類・手順、歯科衛生士の役割について説明することができる。 ③エックス線写真の正常像・異常像を説明することができる。 ④放射線治療患者の口腔管理について説明することができる。 臨床検査学 ①これから行おうとする検査の必要性、内容、検査に伴う不快事項、検査時間、検査項目、検査成績の意味などを説明することができる。 ②患者の身体の情報を十分把握し、また理解する能力を養うことができる。	
授業概要	歯科放射線学 講義：画像検査は歯科診療に欠かすことが出来ないものであり、歯科衛生士は適切な画像検査が円滑に行われるように補助を行う。そのために必要な知識として、歯科放射線学を理解する。 臨床検査学 講義：歯科衛生士として習得すべき一般検査業務の概要を理解するとともに、歯科臨床における歯科的検査について、その理論を学ぶ。	
評価方法	歯科放射線学については、本試験のみで評価とする。試験に対するフィードバックは掲示で行う。 臨床検査学については、本試験のみの評価。試験に対するフィードバックは掲示で行う。 科目それぞれの比重は50%ずつとする。	
予習・復習時間	【予習】0.5時間 【復習】0.5時間	
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯科放射線 全国歯科衛生士教育協議会・監修 医歯薬出版 【歯科衛生学シリーズ】臨床検査 医歯薬出版株式会社	
参考書		
オフィス-連絡先	谷口紀江 月、水-土 9：00～17：00 付属病院4F 画像診断科、または第2研究棟 1F 画像診断学講座研究室 不在時はメール (taniguchi@kdu.ac.jp) でお願いします 角田 晃 月-金 16：30～17：00 4号館 2F 角田研究室 tsunoda@kdu.ac.jp。 不在時はメールでお願いします。	